

## ◆大使からの活動報告(2014年4月末から5月下旬迄)

—河澄JICA専門家(小学生の算数能力向上)への公館長表彰他—

2014年5月23日現在  
在グアテマラ日本大使  
川原 英一

### ◎CONRED(防災国家調整局)中央防災センター訪問

4月28日、マルドナドCONRAD長官(左写真)にお会いして、災害リスク管理・防災のために設立されたCONREDの活動について伺いました。



現在、全国に450名ほどの職員が配置されていますが、同時に視察した中央防災センターでは、緊急電話通報への対処、中米地域の気象情報、地震観測情報、津波などのモニタリング、32ある国内の火山活動のモニタリング、無線情報提供サービスなどについて、直接に担当職員とお話することが出来ました。長官から、防災(Bosai)という日本語発音が飛び

出した他、防災協力について、これまで日本との間で大変に良好な関係を維持していること、目下の最優先課題の一つとして、300万人を越える全国の小学校児童のための防災教育を実施したいとの御発言などがありました。小学校児童への防災教育は、教育省と連携をして実施する必要がありますが、児童300万人分の教材提供に要する財源手当が今後の課題であるとの説明もありました。

### ●デルバジェ(del Valle de Guatemala)大学訪問

5月2日、グアテマラ市内にあるデルバジェ大学本部キャン



パスを訪問しました。

1966年に創設されたグアテマラで二番目に伝統ある私立総合大学で、ラボ

での研究・実践を重視し、学生数3千名のうち理工系学生が過半数おり、また、同大学が運営する2つの地方キャン

パスでは、農学・初等中等教員養成等にも力を入れているとロベルト・モレノ学長(左上写真)より伺いました。大学内のバイオ化学ラボ施設では、バイオ・ディーゼル精製装置、水処理装置



など拝見しました(右上写真:ラボ視察風景)。

同学部では、イサバル県で水処理(水浄化、リサイクル)関連プロジェクトを進めているとの話も伺い、昆虫学研究所では、珍しい標本等を拝見しました(左写真)。当方に同行して大学施設をご案内頂いた教職員やラボでお会いした研究者の皆さんが、全



員バイリンガル(英・西語)であることにも興味深く感じました。当方から、同大学の卒業生 6 名が日本政府の国費研究留学生としてこれまで日本に留学したこと、また、2015 年は、グアテマラをはじめ中米各国と日本との外交関係樹立80周年記念の交流年であること、日本の従来のグアテマラへの協力活動セミナーなどを当国の学生向けに企画してみたいとお話したところ、モレノ学長から、大学と当大使館で連携した企画に支援・協力したいと、大変にご理解ある御発言がありました。

#### ◎こども癌センターの視察(5月6日)

子供病棟は、30 年前から小児がん患者の治療病院として活動を開始し、その後、体制を



順次整え、総合的なガン治療体制を整備し現在に至っているとお聞きしました。病棟内を拝見したところ、親子のための個室病棟、子供達に楽しい雰囲気づくりのため、カラフルな廊下や壁、遊戯室、音楽施設などがあり、栄養改善室、歯科・小児科室、死亡患者を肉親・関係者で弔う部屋まで拝見しました。

地方から入院治療にやってくる子供達が入院患者の75%を占め、なかでも1才から5才までの子供が入院患者総数(約 50 名)の半数近くだそうです。また、外来患者として抗がん剤治療を受ける子供が、毎日 140-150人程度訪ねてきていますと伺いました。病院に来る子供達のために明るい病棟内共有部分の雰囲気づくりがなされており、清潔さを常時維持するための努力、総合的治療のため、小児科・歯科医師による診察が受けられ、また、患者の付き添いの親のための宿泊施設なども近くに提供されています。ここでは、子供のがん治療のための個人経費負担はありません。運営経費の大半を民間団体寄付により賄い、国からの補助は運営費の3割であるとのこと。病棟内や病院入口ロビー付近でお会いした子供患者達(左上写真)の明るい表情が極めて印象深く心に残りました。

#### ◎ティカル世界複合遺産への日本の貢献;金沢大学中村教授との懇談



5月9日、当国最北部にあるティカル遺跡での現地調査を終えたばかりの金沢大学中村誠一教授(右写真真ん中)とお会いする機会がありました。同教授には、この半年間に何度も当地でお会いしており、その都度、世界複合遺産であるティカル遺産の研究保全活動の進捗状況についてのお話を伺っています。

中村教授は、80年代からマヤ遺跡研究を進めておられたそうですが、グアテマラでは、長く(1960年から96年まで)内戦があり、まず、お隣のホンジュラスでのマヤ遺跡発掘・研究に従事をされ、その後、2004年からグアテマラのマヤ遺産のスーパースターであるティカル遺産の発掘・研究を開始されたとのこと、その後、毎年、ティカルで

の研究・研修活動を続けられています。また、日本政府の無償資金協力プロジェクトとして実施したティカル遺産研究・保全センターの案件形成にも関与をされました。同センター完成後は、ティカル遺産の研究・保全活動を推進するため、同センターを拠点とした人材育成活動面で大いに尽力をされておられます。中村教授から、ティカルプロジェクトは、金沢大学の看板プロジェクトにもなっているとのお話を伺い、大変に有り難く感じました。

### ◎日本語弁論大会(5月17日)



5月17日、当国唯一の国立大学であるサンカルロス大学で恒例の日本語弁論大会がありました。

この大会は毎年5月に同大学で開催されており、今年は17回目を迎えます。会場には、大会出場の学生以外に、大学教員、学生家族、在留邦人の方々が数多く参加されており、大会審査員は、日本人学校寺西校長、JICA 前田事務所長、日本人学校 新谷運営委員長、大使館西原文化担当書記官が務め、各出場者は、スピーチ終了後、審査員との間で、簡単な質疑応答もありました。



出場者は、ステージに立ち、5分以内で教育の役割についてのそれぞれの思いを語ってくれました。なかには、教育は世界を変える、とのネルソン・マンデラ氏の言葉を引用した学生もあり、興味深く感じました。また、昨年の弁論大会優勝者であるディエゴ君がステージに上がり(左写真)、大会で優勝後に招待された国際交流基金主催の訪日日本語研修に参加し、日本での滞在期間中の様々な経験について、パワーポイントを使用しての報告があり、観客から、感嘆の声が聞こえました。



また、昨年の弁論大会優勝者であるディエゴ君がステージに上がり(左写真)、大会で優勝後に招待された国際交流基金主催の訪日日本語研修に参加し、日本での滞在期間中の様々な経験について、パワーポイントを使用しての報告があり、観客から、感嘆の声が聞こえました。

### ◆大統領夫人による平和記念モニュメントの除幕式



5月19日、グアテマラ市内動物園内の一角で、ペレス大統領夫人(左写真:右からお二人目)による平和を記念したモニュメント(右上写真)の除幕式がありました。当国の子供達にグアテマラで過去にあった長期の内戦後に達成された平和の尊さを知ってもらうため、子供達に人気の動物園内に建立されたのだそうです。



除幕式後、国立交響楽団による室内コンサートがあり、内戦があった地方に因んだ曲が演奏さ

れ、セレモニーを盛り上げておりました。

#### ◆河澄ICA専門家(当国小学生の算数能力向上)への公館長表彰



5月21日、当初はJICAの協力隊員として、その後、教育アドバイザーとして、当国の子供達の算数能力プロジェクトに9年余り大活躍されている河澄さつきJICA専門家に対する公館長表彰式を大使公邸に



において実施しました。

このプロジェクトにより作成された教科書が、



2008年にはグアテマラの全国公立小学校の算数教科書として採用されました。導入された直後の調査では、導入後、小学校児童の学力が飛躍的に伸びたことから、教育省関係者から極めて



高い評価を得ています。表彰式には、デ・アギラ教育大臣(右上写真

右からお二人目)、デ・セグラ同次官(右上写真の左からお二人目)、サンカルロス大学教員養成課程教授、企画庁副長官、JICA・邦人関係者などにご列席を頂き、表彰式及びレセプションが楽しい雰囲気の中でありました。終了後、多数の当地メディア関係者からの取材もありました。



#### ◆日本留学生の会の設立総会開催

5月22日、元日本留学生の会の設立のための総会が当方公邸であり、会長、副会長3名、事務局長が承認されました。今後、大使館とも協力・連携しながら、様々な活動を行い、日本とグアテマラの間をさらに強化する架け橋となることを目的とするこ

となどが全会一致で確認されました。また、当方は同会名誉会長に御指名を頂きました。当方からは、2015年がグアテマラと日本にとり、特別な年であり、今後、共に活動する場が大きく広がることを期待します旨発言致しました。1974年に第一号の国費留学生が研究留学のため日本に派遣され、現在までに77名の方がグアテマラに帰国、その後、各分野で大いなる活躍をされています。



同総会終了後のレセプションで元留学生の皆さんと懇談しました。参加者の方々からは、長年待ち望んでいた留学生の会がようやく発足することになり、とても嬉しい、多彩な能力を有するメンバーと一緒に当地で各種セミナーなどの実施を考えたいとの積極的な声が多くありました。(了)